

成果主義で生活不安高まる

朝日新聞（6月5日朝刊）によると「成果主義の賃金制度が浸透すると将来の資産設計が難しくなり、生活ローンなどへの不安も高まることが生命保険文化センターの調査で明らかになった」と伝えています。

私たちも成果主義賃金＝NECの新人事処遇制度について、繰り返し、次のように指摘しましたが、大規模な調査でも成果主義で生活不安が高まることが実証されました。

現在20代、30代の人も生涯賃金の減少と見通せない生活設計

低賃金の「学卒初任給20万円」はそのままにして、多少中間部分を膨らまして「ミッドポイント」以降の賃金昇給カーブが寝かされ、また、定年時の賃金が現行より抑えられるため、その定年時の賃金で算出される年金や退職金が減少し、ほんの一部の「評価の高い」層を除いては、現在の青年も生涯賃金は大きな減収になることが予想されます。

これでは、現在の青年層も安心して暮らせる将来の生活設計ができません。

会社は青年や中堅層が仕事に対する意欲を持つようにする「インセンティブ：動議付け」として本制度を導入する意図があるといっていますが、将来の生活設計ができないような賃金制度では、のびのびと個性豊かな「輝く個人」が形成されるでしょうか？そして、本当に仕事に取り込む意欲が出るでしょうか？（NEC労働者懇談会「新人事処遇制度」に対する見解より）

では、新聞報道報道の一部を紹介します。（朝日6/5付）

成果主義の賃金制度が浸透すると将来の資産設計が難しくなり、生活ローンなどへの不安も高まることが生命保険文化センターのまとめた「ワークスタイルの多様化と生活設計に関する調査」で浮かび上がった。同センターは、成果主義で収入が不安定になり、生活や意識に影響を及ぼしていると分析している。

調査は昨年9月、大都市圏の一般就労者1,035人と、フリーターの就労者1,080人を対象に行った。

生活不安を感じる人の割合を、年功型賃金の人と成果主義の人とで項目別に比べると、成果主義の人の方が住宅ローンで6.7%、教育費で11.5%高かった。既婚男性では、将来の資産設計をしていない人の割合は成果主義の人の方が9.3%高く、「妻にも働いてほしい」と答えた割合も7.0%高かった。

調査では、中高年の転職経験者の金融資産残高が少ないことも示された。

（以下省略）